



報道関係各位

2019年2月1日

わたしはどこにいる？ ^{サイン}道標をめぐるアートとデザイン

2019年3月9日(土)より、「わたしはどこにいる？ ^{サイン}道標をめぐるアートとデザイン」を開催します。

「サイン」とは、人を目的地に導く目印のこと。普段意識することは少なくとも、駅や空港、商業施設、美術館などのあらゆる場所に、標識や案内板、矢印やピクトグラムといったさまざまなサインが存在しています。一方で、「人生の道標(みちしるべ)」という表現があるように、場所やそこに至る道程は人間の生き方とも分かちがたく結びついています。

本展では「サイン＝道標」に注目し、グラフィックデザイナーによるサインデザインと、場所との関係性を追究した現代美術作品をあわせてご紹介します。本展出品作品を通して、人間がどのように場所や空間を理解し、伝えようとしてきたのか、そしてその中でめぐらされる「わたしはどこにいる？」という問いに、「アート」と「デザイン」の双方から迫ります。

展覧会名	わたしはどこにいる？ ^{サイン} 道標をめぐるアートとデザイン
会期	2019年3月9日(土)～5月19日(日)
出品作家 (五十音順)	秋山さやか(現代美術作家) 色部義昭(グラフィックデザイナー／アートディレクター) 葛西薫(アートディレクター) 康夏奈(現代美術作家) 佐藤修悦(警備員) 田村友一郎(現代美術作家) 廣村正彰(グラフィックデザイナー)
関連資料	アイソタイプ関連書籍、大阪万博ピクトグラム
会場構成・ サイン計画	色部義昭(富山県美術館サイン計画デザイナー)
ポスターデザイン	TSDO Inc.



会 場	富山県美術館 2階展示室 3, 4
開館時間	9:30 ~ 18:00(入館は17:30まで)
休 館 日	水曜日、3月22日(金)、5月7日(火) ※4月25日(木)~5月6日(休・月)は無休
料 金	当日券一般:900 (700)円/大学生:450 (350)円、前売券一般700円 ※高校生以下無料、()内は20名以上の団体料金 ※前売券は3月8日(金)まで ※前売券販売所:富山県美術館、富山県水墨美術館、アーツナビカウンター(富山県民会館(富山市)、富山県教育文化会館(富山市)、富山県高岡文化ホール(高岡市)、新川文化ホール(魚津市))
主 催	富山県美術館、富山新聞社、チューリップテレビ

※本展覧会は beyond2020 プログラム認証事業です。

本資料に関するお問い合わせ 富山県美術館 普及課:碓井/学芸課:稲塚、八木/広報:北澤
TEL 076 - 431 - 2711



本展見どころ

「サイン」や場所をテーマに、国内外で活躍する 7 名のアーティストとデザイナーによる作品と、関連資料を紹介します。現代美術作家 3 名はそれぞれ富山で取材・滞在を行い、それをもとにした新作を発表します。会期中には、美術館の外から館内各所に“出張”してきたサインを、マップを手に探して楽しむことができます。また、本展の会場構成・サイン計画は、富山県美術館のサイン計画を手がけた色部義昭氏が担当します。館内全体でサインと出会い、体感する機会となることでしょう。

出品作家紹介(五十音順)

秋山さやか (あきやま さやか／現代美術作家)

1971 年兵庫県生まれ。神奈川県在住。2001 年、女子美術大学大学院美術研究科修士課程修了。国内外さまざまな土地を巡り制作を続けている。地図などに自らの行動を一針一針縫い付ける、旅先で出逢ったものを集めつなぎ合わせるなど、自己と場所の関係性を色濃く反映する独自の表現を追求。近年の主な展覧会に、さいたまトリエンナーレ 2016、日産アートアワード 2015、「始発電車を待ちながら」(東京ステーションギャラリー、2012)など。主な作品収蔵先に、東京都現代美術館、サンドレット・レ・レバウデンゴ財団美術館(イタリア)など。第 21 回タカシマヤ美術賞(2010)受賞。

色部義昭 (いろべ よしあき／グラフィックデザイナー／アートディレクター)

1974 年千葉県生まれ。東京藝術大学大学院修士課程修了後、株式会社日本デザインセンターに入社。原デザイン研究所の勤務を経て、2011 年より色部デザイン研究所を主宰。東京藝術大学非常勤講師。グラフィックデザインをベースに、平面から立体、空間まで幅広くデザインを展開。近年の主な仕事に Osaka Metro の CI、国立公園ブランディング、草間彌生美術館、市原湖畔美術館、天理駅前広場 Cofufun のサイン計画など。SDA、JAGDA、東京 ADC、D&AD、One Show Design など国内外のデザイン賞を受賞。AGI 会員(国際グラフィック連盟)、東京 ADC 会員、JAGDA 会員。株式会社日本デザインセンター取締役。富山県美術館サイン計画デザイナー。

葛西薫 (かさい かおる／アートディレクター)

1949 年札幌市生まれ。文華印刷、大谷デザイン研究所を経て、1973 年(株)サン・アド入社。主な仕事に、サントリーウーロン茶中国シリーズ、ユナイテッドアローズ、虎屋の広告制作およびアートディレクションのほか、サントリーの CI、六本木商店街ネオンサイン、映画・演劇の宣伝制作、装丁など活動は多岐。朝日広告賞、東京 ADC グランプリ、毎日デザイン賞、講談社出版文化賞ブックデザイン賞、日本宣伝賞山名文夫賞など受賞。近作に「TORAYA CAFÉ・AN STAND」の CI・パッケージデザイン、『クレーの日記』(みすず書房、2018)の装丁など。著書に『図録 葛西薫 1968』(ADP、2010)。



康夏奈（こう かな／現代美術作家）

1975年東京都生まれ。2002年広島市立大学芸術学部デザイン工芸学科卒業。2017年より広島市立大学芸術学部彫刻科非常勤講師。山に登る、海に潜るといった身体的体験や記憶をもとに、自身を取囲む自然の風景を素材として、時間や空間、宇宙についての制作を試みる。近年の主な個展に「コズミックカクタス」（アートフロントギャラリー、東京、2016）、「プルメリアに映る雪」（モエレ沼公園ガラスのピラミッド札幌、2015）、主なグループ展に「土木展」（21_21 DESIGN SIGHT、東京、2016／藝倉美術館、上海、2018）、「MOT アニュアル 2014:フラグメント——未完のはじまり」（東京都現代美術館、2014）、瀬戸内国際芸術祭2013など。

佐藤修悦（さとう しゅうえつ／警備員）

1953年岩手県生まれ。三和警備保障に所属する警備員として、現在 JR 新宿駅に勤務。2003年、JR 新宿駅の工事現場で勤務のかたわら、現場にあったガムテープを用いた案内標識をつくり始める。ガムテープを縦横に貼りめぐらせ、角に丸みをつけた独自の字体がインターネット上や口コミで話題となり、「修悦体」として知られる。2007年より JR 日暮里駅に勤務、改装工事時の案内表示を制作。映画『まぼろしの邪馬台国』（2008）をはじめ、広告や CD などの題字も手がける。近年の展覧会に、「文体の練習」（鞆の津ミュージアム、広島、2018）など。著書に『ガムテープで文字を書こう』（監修、世界文化社、2009）。

田村友一郎（たむら ゆういちろう／現代美術作家）

1977年富山県生まれ。熱海市および京都市を拠点に活動。日本大学芸術学部写真学科卒業。東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。ベルリン芸術大学空間実験研究所在籍（2013-14）。映像や美術といった旧来のカテゴリーにとらわれない、独自の省察の形式を用いることによって、観客との間に新たなコミュニケーションを生み出す。近年の主な展覧会に、「六本木クロッシング 2019 展：つないでみる」（森美術館、2019）、釜山ビエンナーレ 2018、日産アートアワード 2017、「試論：栄光と終末、もしくはその週末 / Week End」（小山市立車屋美術館、栃木、2017）、「BODY/PLAY/POLITICS」（横浜美術館、2016）など国内外多数。

廣村正彰（ひろむら まさあき／グラフィックデザイナー）

1954年愛知県生まれ。田中一光デザイン室を経て、1988年廣村デザイン事務所設立。グラフィックデザインを中心に、商業施設や美術館などの CI、VI 計画、サインデザインを多く手がける。多摩美術大学客員教授、一般社団法人ジャパンクリエイティブ代表理事。主な仕事に、日本科学未来館、横須賀美術館、9h（ナインアワーズ）、すみだ水族館、あべのハルカス、台中国立歌劇院、名古屋城本丸御殿、そごう・西武、ロフトのアートディレクション他。毎日デザイン賞、KU/KAN賞、SDA大賞、グッドデザイン金賞など受賞。近著に『デザインからデザインまで』（ADP、2015）。



関連イベント

(1) 葛西薫氏 × 廣村正彰氏 × 色部義昭氏 オープニング記念鼎談

本展出品作家であり、日本を代表するグラフィックデザイナーの3名がサインデザインを語ります。

日時 3月9日(土) 14:00～(約90分)

会場 3階 ホール

定員 100名(先着順、事前申し込み不要)

参加費 無料(当日有効の企画展観覧券が必要です)

(2) 佐藤修悦ワークショップ「ガムテープ文字をつくろう」

カラフルなガムテープを使って、佐藤修悦氏オリジナルの字体「修悦体」にチャレンジします。

日時 3月24日(日) 14:00～(約90分)

会場 3階 アトリエ

対象 おとな向け(中学生以上)

定員 15名(要事前申込/2月15日(金)より、電話(076-431-2711)にて先着順で受付開始予定)

参加費 無料(当日有効の企画展観覧券が必要です)

※詳細は当館ホームページ・SNSにてお知らせします

(3) 出品作家によるアーティスト・トーク

秋山さやか氏、康夏奈氏、田村友一郎氏によるアーティスト・トーク等のイベントを予定しております。

※詳細は決定次第当館ホームページ・SNSにて順次お知らせします。

(4) 担当学芸員(方向オンチ)によるギャラリートツアー

本展担当学芸員と展示室をまわります。方向オンチでも展示会の見どころをばっちりご案内します!

日時 3月16日(土)、23日(土)、4月6日(土)、20日(土)、5月11日(土)、19日(日)

※各日 14:00～(約30分)

会場 2階 展示室3、4 ※展示室3の入口入った辺りにお集まり下さい。

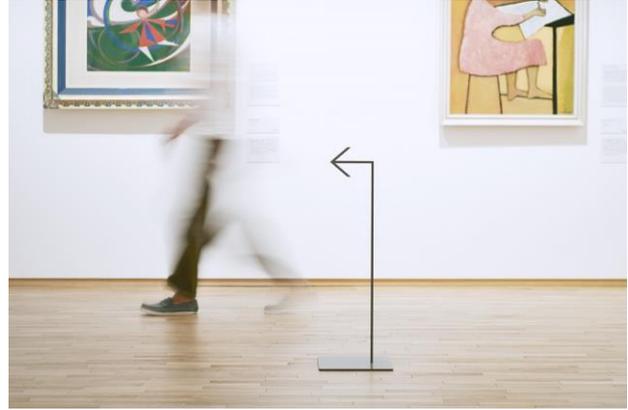
参加費 無料(当日有効の企画展観覧券が必要です)



わたしはどこにいる？ ^{サイン}道標をめぐるアートとデザイン 広報用画像



写真①



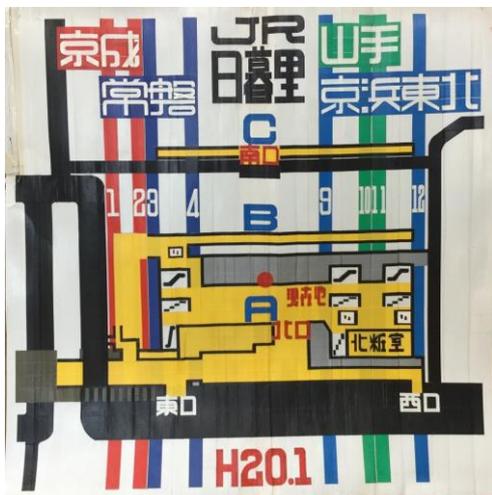
写真②



写真③



写真④



写真⑤



写真⑥



写真⑦



写真⑧



わたしはどこにいる？ ^{サイン}道標をめぐるアートとデザイン 広報用画像申込書

FAX 076-431-2712 /E-mail: abijutsukan@pref.toyama.lg.jp

■裏面の記載の注意事項をお読みいただき、以下の必要事項をご記入の上、お送りください。

申込フォーム	
貴媒体名	
貴社名／部署	
ご担当者氏名	E-mail: @
ご住所	〒
ご連絡先	TEL: FAX:
掲載／放送予定日	年 月 日 掲載号発売日: 年 月 日
記載内容	
データの必要期限	年 月 日まで

※ご記入いただいた個人情報は、広報用写真貸出しの目的のみに使用し、それ以外の用途には使用いたしません。

■掲載ご希望の画像(□にチェックを入れてください)

広報用画像一覧・掲載時のキャプション	
わたしはどこにいる？ ^{サイン} 道標をめぐるアートとデザイン 画像	
<input type="checkbox"/> ①秋山さやか アトリエでの滞在制作風景 (2019年1月14日)	<input type="checkbox"/> ②色部義昭 富山県美術館 館内サイン 2017年 (サイン計画:色部義昭/監修:永井一正)
<input type="checkbox"/> ③葛西薫 東京都立つばさ総合高等学校 《Wisdom on Wall》2002年	<input type="checkbox"/> ④康夏奈 《立山飛行体シリーズ》(仮称)作品イメージ
<input type="checkbox"/> ⑤佐藤修悦 JR日暮里駅構内案内図 2008年	<input type="checkbox"/> ⑥田村友一郎 作品イメージ(シモン・ゴールドベルク旧蔵品)
<input type="checkbox"/> ⑦廣村正彰 横須賀美術館 2007年	<input type="checkbox"/> ⑧「わたしはどこにいる？ ^{サイン} 道標をめぐるアートとデザイン」ポスター (Design: TSDO Inc.)



富山県美術館 広報用使用画像について

- ◎ 本広報用画像の使用は、出版・放送(番組)・WEB等、富山県美術館および展覧会の広報を目的とした報道に限らせていただきます。展覧会の広報にあたっては、展覧会名、会期、会場を必ずご掲載ください。
- ◎ 画像は「広報用画像申込書」に掲載または放送内容を具体的に記載の上、ご申請ください。富山県美術館より画像データをお送りいたします。**提供した画像データは、使用后すみやかに破棄してください。**
- ◎ 画像使用の際は、「広報用画像申込書」をご参照の上、所定のキャプションとクレジットを表記してください。
- ◎ 画像は全図で使用してください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ◎ ロゴマーク・ロゴタイプに他のデザイン要素を重ねたり、横切らせたり、余白を削除したりすることはしないでください。
- ◎ 申請をいただいた媒体以外の企画(例:出版物表紙、広告素材使用は不可)での二次使用はできません。**再掲載・再放送などを希望される場合は、別途申請が必要です。**
- ◎ 基本情報と画像使用の確認のため、校正をFAXまたはメールで富山県美術館広報担当までお送りくださいますようお願いいたします。
- ◎ 掲載および放映いただいた場合、お手数ですが掲載紙・誌、URL、番組収録のDVD、CDなどを富山県美術館にご提供ください。